

サッカーにおけるシュート数（枠内・枠外）と得点率の関係性 ～FIFA ワールドカップ 2010 の上位と日本代表を比較して～

明崎 剛士 （競技スポーツ学科 コーチングコース）
指導教員 松田 保 教授

キーワード：シュート数、日本代表、上位国、得点率

1. 緒言

FIFA ワールドカップ 2010 南アフリカ大会において、岡田武史監督率いる日本代表はグループリーグを2勝1敗という成績で1位のオランダに続き2位で予選を突破した。しかし決勝トーナメント1回戦でパラグアイとぶつかり、死闘を繰り広げたが惜しくもPK戦で敗れ悔しい結果となった。岡田監督は就任直後に南ア大会ベスト4進出という壮大な目標を掲げたが、結果はベスト16と目標を達成することはできなかった。著者は日本代表の試合を見ているときに常々感じるものがあつた。それはシュートの本数である。日本代表の試合と強豪国といわれるチームの試合を比べて見てみると、明らかにシュートの本数や決定的なシーンが少ないように感じた。そこで本研究では、シュートの本数やシュートの質が得点率とどう関わっているのか、またそれが勝利にどう繋がっているかをあらゆるデータを取り、ワールドカップ上位国と比較し明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

FIFA ワールドカップ 2010 南アフリカ大会の日本代表チームの全4試合とベスト4に勝ち進んだ上位国4チーム（スペイン・オランダ・ドイツ・ウルグアイ）の各チーム4試合を分析対象とし、VTR分析を行う。

3. 結果・考察

上位国4チームのスペイン・オランダ・ドイツ・ウルグアイは、4試合で合計50本以上または50本近くのシュートを打っていて、1試合平均10本以上のシュートを打っている。5チームの中で4試合の合計シュート数が最も多かったのは、優勝したスペインだった。日本は4試合で合計36本、1試合平均9本と他のチームと比べて明らかに少ないということがわかった。得点率は、ドイツが4試合で合計56本のシュートを打っていて、ゴールが11点で得点率20%と5チームの中で最も高く、スペインは4試合で合計59本のシュートを打っていて、ゴールが3点で得点率5%と他の4チームに比べて、極端に低かった。

4. まとめ

攻撃は最大の防御という言葉があるが、まさにその通りでシュートが多いチームというのは相手よりも攻撃回数が多く、相手に攻撃の時間を与えずに、またその試合を優勢に進めていて、結果勝利に繋がっていることが本研究で明らかとなった。スペインが得点率5%と最小得点で優勝できたのは、シュートで終わる攻撃やチームとして機能している攻撃が多く、また攻撃をすることで相手の攻撃チャンスを減らし、試合を優勢に進めていたということがわかった。